

## 【視 点】

### いわきニュータウンを見て

先般、福島県いわき市のいわきニュータウンなどを見る機会を得た。

いわき市は、福島県の南東部に位置し、南は茨城県に、東は太平洋に接している。昭和39年の新産業都市の指定を契機に、昭和41年に14市町村が合併して誕生し、市としては日本一広い面積を持っている。かつては、常磐炭坑のまちとして活況を呈した地域であるが、石炭産業の斜陽化により、新たな産業の構築を目指して大合併を行ったわけである。

いわき市において、地域振興整備公団は、その前身である産炭地域振興事業団時代から工業団地造成を行ってきたが、昭和51年には、工業再配置事業として「いわき好間中核工業団地(324ha)」に、また、地方都市整備事業として「いわきニュータウン(530ha)」に着手した。

いわきニュータウンは、当市の都市構造が、旧市町村の中心市街地毎に分散する形になっており、一体性に欠けていたことから、それらのほぼ中心に位置する丘陵地に、住、職、学、遊の機能を持つ新たな町並みを創出する目論見でスタートした。

事業地区の中心に70haの県立いわき公園があり、これを取り囲むように宅地造成が行われている。300㎡をこえる画地、人と車が分離された道路、緑地協定や建築協定による緑豊かな環境等、大変に質の高い住宅街区が形成されている。いわき明星大学も地区内に立地し、ニュータウンに対する人気は高いとのことで、景気が長期低迷を続けている90年代に入ってから、分譲はおおむね順調とのことである。

いわき市は、東京から200km圏であり、常磐・磐越自動車道、重要港湾小名浜港の整備など条件にも恵まれていたといえるが、各般の取組みの結果、人口362,000人、製造品出荷額約1兆円(東北1位)の都市として成長しつつあることは、大変に頼もしい。市域が広大なことから道路整備が重点的にすすめられたこともあり、車社会化が加速し、大規模店が郊外に集積し、旧来の商店街が沈滞するという、全国に見られる現象は当市でも顕著であるが、このように市勢に活力があれば、実効ある対応策も立てやすいと思う。

戦後の我が国は、一貫して大都市、中でも東京への集中が続いたために、国土の均衡ある発展を目的とした新産業都市や工業再配置、地方都市整備等の政策があまり効果を上げていないように思われがちである。しかし、いわき市の現在を見るとき、国の地域政策や地方自治体の熱意と努力は、長年月経ってみれば、やはり報われているという思いが強かった。

(財) 土地総合研究所 専務理事

森 悠